

興る！太子高校！！

学びを「力」にするために その3

本年度は、「興る！太子高校！！」をキーワードに、内なる力に気づき主体的に伸ばそうとする生徒の育成を目指します。校長通信では、そうした太子高校の「今」をお伝えできればと考えています。

授業評価には、「ループリック」を用います。4～5段階で「大変よくできている（理解できる）」から「できていない（理解できない）」までの評価を生徒が行います。しかし、ループリックは一つずつの評価項目が文章で書いてありますから、教師がその評価文を作るのはとんでもなく大変ではないかと思いがちです。

しかし、「大変よくできている」というランクの評価文は、じつはその授業での到達点をしめしています。つまり、「満点！」の内容ですね。あとは、そこから少しずつ分かっていないと思われるランクを作っていけばいいのです。これを作成すると、教師の中にその授業や単元で到達すべき内容が明確になります。そうやって初めて、授業の狙いを生徒に示すことができるのです。「この授業はここまで分かればいい」「この授業のねらいはこれ」と、教師と生徒が共有できれば、ゴールの見える授業になって、活気が出ます。

何をどこまでやったらいいのかが分からなければ、最初は勢いがよくてもだんだんしんどくなるのは、だれしも経験したことがあるでしょう。しかも、合格ラインが全く分からないとなれば、教室に居ることも、苦痛でしかないかもしれません。今までの高校で行われていた授業は、そういうものがとても多かったように感じます。

太子高校がループリックを用いて授業評価を行おうとしているには、そういう背景があります。誰もが分かる授業にするには、教室にいる教師と生徒にその授業の「ゴール」が共有されていることが必要条件です。今年は、それを目指します。

ONE SHOT



ある雨の日。外回りの整備ができないので、校務員さんが来客用の下駄箱を掃除してくださいました。一つずつスリッパを出して、箱の中に掃除機を掛け、丁寧にスリッパを片付ける。掃除とはこんな風にするものだという手本のような光景でした。生徒たちは、何気ない日常の一コマだと見たかもしれませんが、無意識の内にこの光景が焼き付いたことと思います。背中で教育するとは、こういうことだと感じ入りました。本校の校務員さんはお二人とも、優れた教育者です。

学校の力・イ・ダ・ン

太子町内には、自転車専用レーンが設けてある箇所があります。ちょうど本校生の通学路にあたっています。先日そこを通りかかると、登校中の生徒たちが一列になってきちんとレーンを走っていました。「交通ルールをきちんと守る」通学姿は、かっこよかったですよ！！